



Cisco Spaces : IoT Explorer アプリケーション

- [Cisco Spaces : IoT Explorer](#) (1 ページ)
- [Cisco Spaces : IoT Explorer の使用](#) (1 ページ)
- [温度監視 : ユースケースの概要](#) (2 ページ)
- [アセットトラッキング : ユースケースの概要](#) (3 ページ)
- [プレゼンス検出 : ユースケースの概要](#) (4 ページ)

Cisco Spaces : IoT Explorer

Cisco Spaces : IoT Explorer アプリケーションにより、アセット、センサー、アラートシステム、およびワークフローのパフォーマンスの監視および最適化が可能になります。

Cisco Spaces : IoT Explorer の使用

Cisco Spaces : IoT Explorer アプリケーションは、アセット、Internet of Things (IoT) センサー、アラートシステム、運用ワークフローの管理、監視、最適化のための包括的な単一リソースです。

IoT Explorer アプリケーションは、Operational Insights および Cisco Asset Locator アプリケーションの第3世代の拡張バージョンです。IoT Explorer アプリケーションは、Cisco Spaces でデバイス主導のIoTユースケースを検討しているユーザーに迅速な価値をもたらし、ACT ライセンスレベルでIoT サービスに価値を追加するように設計されています。

このアプリケーションは、以下に示す3つのユースケースを実現します。

- [温度監視](#) : 空間を監視し、温度変化の通知を受け取る
- [アセットトラッキング](#) : アラートを見つけ、監視し、設定して、アセットの場所に関する洞察を得る

- スペースの占有/プレゼンス検出 : 物理的なスペースがどのように占有されているかをリアルタイムで把握

これらの各ユースケース内で、ルール/アラートの作成、データログの表示、デバイスまたはセンサーのリアルタイムのロケーションとステータスの表示を行うことができます。IoT Explorer アプリケーションの UI は、ユースケースを簡単に設定できるように設計されています。

IoT Explorer アプリケーションは、MAC 組織固有識別子 (OUI) 標準に準拠するデバイスと、最初の出現から 24 時間後も更新を送信し続けるデバイスのみをフィルタ処理します。

Cisco Spaces : IoT Explorer の詳細については、「[Cisco Spaces: IoT Explorer コンフィギュレーション ガイド](#)」を参照してください。

温度監視 : ユースケースの概要

温度監視のユースケースを使用して、屋内環境を管理および監視します。スケーラブルで合理化されたオンボーディングプロセスを備えた新しい温度センサーを追加し、センサーが特定のしきい値を上回ったり下回ったりしたときにチームメンバーにすばやく通知するルールを作成することができます。

温度モニタリングのユースケースでは、ルールまたはイベントをトリガーするには、デバイスの温度値がルールで定義されている指定条件内にある必要があります。たとえば、ルールでデバイスの温度条件が 5°C ~ 10°C と定義されている場合、イベントがトリガーされるのは、デバイスの温度が 5°C 未満になるか、10°C を超えた後に、5 ~ 10°C の範囲に戻ったときです。

詳細については、「[デバイスの温度監視の構成](#)」を参照してください。

Cisco Spaces ダッシュボードは、**IoT Explorer** アプリケーションの[温度監視 (Temperature Monitoring)]セクションで MT センサーデバイスのインポートをサポートします。

温度モニタリングのユースケースは、次の場合に役立ちます。

- 温度が範囲外になったときにアラートを受け取る
- 時間の経過に伴う温度変化を監視するイベントログを設定する
- すべての空間の温度に関する洞察を得る
- アセットのコンプライアンスを維持する

デバイスの温度監視の構成

手順

ステップ 1 Cisco Spaces ダッシュボードで、Cisco Spaces : IoT Explorer アプリタイトルをクリックします。

ステップ 2 [Temperature Monitoring] をクリックします。

ステップ3 [Get Started] をクリックします。

ステップ4 [Use Case Name] フィールドに、ユースケースの名前を入力します。

ステップ5 [Description] フィールドに、ユースケースの説明を入力します。

ステップ6 [Create Use Case] をクリックします。

温度監視のユースケースは、センサー、ルール、およびユーザーをセットアップするためのさまざまなオプションを使用して作成されます。

ステップ7 次のタブを使用して、構成を実行します。

- [Configure] : センサー、ルール、およびユーザーを構成します。
- [Sensors] : デバイスに接続されているセンサーを検索して管理します。
- [Rules] : アセットに接続されたセンサーを監視するルールを作成します。ルールを機能させるには、ルールをアクティブにし、アクションが自動的に実行されるトリガーが必要です。
- [Users & Roles] : ユーザーを追加し、その役割を管理します。
- [Events] : イベントを検索および管理します。設定したルールによってイベントがトリガーされると、イベントがここに表示されます。

新しいユースケースが作成され、[Active Use Cases] 領域に表示されます。

アセットトラッキング : ユースケースの概要

アセットトラッキングのユースケースを使用して、アセットタグを追加して、重要なオブジェクトの場所を管理および監視し、マップ上のアセットを検索します。スケーラブルで合理化されたオンボーディングプロセスを備えた新しいアセットタグを追加し、アイテムがゾーンを離れたときにチームメンバーにすばやく通知するルールを作成することもできます。関連するすべてのランダムな MAC Wi-Fi デバイスが、このユースケースに表示されます。

アセットトラッキングのユースケースは、以下に役立ちます。

- アセットがゾーン、フロア、または建物を離れたときの通知を構成する
- リアルタイムでアセットを見つける
- デバイスの使用頻度に関する洞察を得る

アセットロケーションのトラッキングとモニタリングの構成

手順

ステップ1 Cisco Spaces ダッシュボードで、**IoT Explorer** アプリタイトルをクリックします。

ステップ2 [Asset Tracking] をクリックします。

ステップ3 [Get Started] をクリックします。

ステップ4 [Use Case Name] フィールドに、ユースケースの名前を入力します。

ステップ5 [Description] フィールドに、ユースケースの説明を入力します。

ステップ6 [Create Use Case] をクリックします。

アセットトラッキングのユースケースは、アセットの管理、ルールの設定、ユーザーの追加を行うためのさまざまなオプションを使用して作成されます。

ステップ7 次のタブを使用して、構成を実行します。

- [Configure] : センサー、ルール、およびユーザーを構成します。 See
- [Locator] : 名前または場所を使用してセンサーを検索します。フロアマップイメージ上のすべてのデバイスをリアルタイムで追跡できます。
- [Assets] : センサーを検索して管理します。
- [Rules] : センサーを監視するルールを作成します。ルールを機能させるには、ルールをアクティブにし、アクションが自動的に実行されるトリガーが必要です。
- [Users & Roles] : ユーザーを追加し、その役割を管理します。
- [Events] : イベントを検索および管理します。

作成された新しいユースケースは、[Active Use Cases] 領域に表示されます。

プレゼンス検出 : ユースケースの概要

プレゼンス検出のユースケースを使用して、デスク、部屋、オフィスの占有状態のライブデータを管理および監視します。スケーラブルで合理化されたオンボーディングプロセスを備えた新しい占有状態センサーを追加し、スペースが一定期間占有されたときにチームメンバーにすばやく通知するルールを作成することもできます。インポートしたマップにセンサーを手動で配置することもできます。

プレゼンス検出のユースケースは、具体的に次のような点で役立ちます。

- データログルールを作成することにより、スペース使用率に関する洞察を得る
- マップを活用して、ライブのスペース占有状況をすばやく確認する
- 過去の占有データを施設チームメンバーと共有する
- スペースが空いたときに通知するルールを設定する

このユースケースでは、次のセンサーがサポートされています。

- パッシブ赤外線センサー (PIR)
- Meraki カメラ

プレゼンス検出の構成

手順

ステップ 1 Cisco Spaces ダッシュボードで、**IoT Explorer** アプリタイトルをクリックします。

ステップ 2 [Presence Detection] をクリックします。

ステップ 3 [Get Started] をクリックします。

ステップ 4 [Use Case Name] フィールドに、ユースケースの名前を入力します。

ステップ 5 [Description] フィールドに、ユースケースの説明を入力します。

ステップ 6 [Create Use Case] をクリックします。

プレゼンス検出のユースケースは、アセットの管理、ルールの設定、ユーザーの追加を行うためのさまざまなオプションを使用して作成されます。

ステップ 7 次のタブを使用して、構成を実行します。

- [Configure] : センサー、ルール、およびユーザーを構成します。
- [Occupancy View] : 名前または場所を使用してセンサーを検索します。フロアマップ画像から、占有スペースと非占有スペースを追跡できます。
- [Sensors] : センサーを検索して管理します。
- [Rules] : センサーを監視するルールを作成します。ルールを機能させるには、ルールをアクティブにし、アクションが自動的に実行されるトリガーが必要です。
- [Users & Roles] : ユーザーを追加し、その役割を管理します。
- [Events] : イベントを検索および管理します。

作成された新しいユースケースは、[Active Use Cases] 領域に表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。